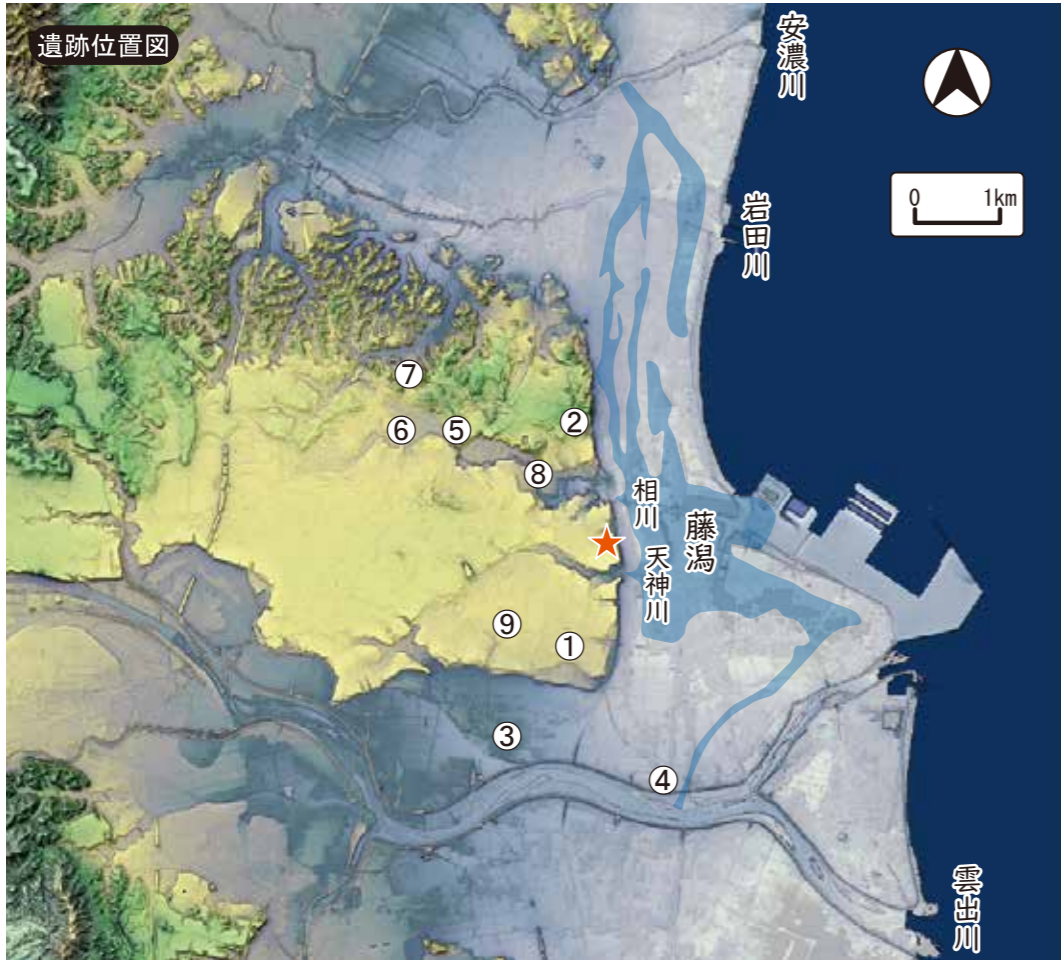


たかぢややおおがいと  
**高茶屋大垣内遺跡（第6次）発掘調査現地説明会**

主催： 三重県埋蔵文化財センター  
 開催日：令和5年9月30日（土）



★高茶屋大垣内遺跡

- ① 四ツ野B遺跡
- ② 池の谷古墳
- ③ 木造赤坂遺跡
- ④ 雲出島貫遺跡
- ⑤ 相川西方遺跡
- ⑥ 久居窯跡群
- ⑦ 藤谷窯跡群
- ⑧ 法ヶ広窯跡
- ⑨ 高茶屋大塚古墳

※カシミール3Dスーパー地形図を用いて製作

※参考文献：伊藤裕偉 2007『中世伊勢湾岸の湊津と地域構造』中世史研究叢書⑩ 岩田書院

**高茶屋大垣内遺跡からみた古墳時代のものづくりと地域間交流**

高茶屋大垣内遺跡の立地を考える際に重要になるのが「藤潟」の存在です。藤潟は津市南部にあった潟湖で、周辺には銅鐸が出土した四ツ野B遺跡（1）や全長90mの前方後円墳である池の谷古墳（2）があり、古墳時代以前から他地域との交流に携わった人々の存在がうかがえます。

また、この地域はものづくりに関係する遺跡が非常に多く、相川西方遺跡（5）では弥生時代終末期～古墳時代初頭（約1,800年前）の粘土を採掘した土坑がみついているほか、古墳時代中期（約1,600年前）以降には久居窯跡群や藤谷窯跡群で、須恵器や埴輪の製作が確認されています。

高茶屋大垣内遺跡では、今までの調査で鉄器や土師器の製作を裏づける遺物や遺構がみつっていますが、今回の調査でも古墳時代前期（約1,700年前）の土器づくりに関係するかもしれない土坑が確認されました。その土坑からは東日本に由来を持つ土器も出土しています。古墳時代前期には東日本において東海系の土器が拡散することがわかっています。今回の調査を通して、ものづくりと他地域との交流の両面で高茶屋大垣内遺跡の重要性を確認することができました。

調査遺跡名：高茶屋大垣内遺跡

所在地：三重県津市城山

調査面積：5,072㎡（予定）

原因事業名：令和5年度 県盲学校・聾学校等新築工事

調査実施機関：三重県埋蔵文化財センター

調査期間：令和5年5月8日～令和5年12月15日（予定）



**古墳時代の倉庫や焼失建物を発見！**

高茶屋大垣内遺跡は津市南部に所在する弥生時代から中世までの遺跡です。北を相川、南を天神川に区切られ、東に伊勢湾を臨む眺望のよい台地上に立地しています。平成9・10年度の調査では、古墳時代の大型掘立柱建物を含む方形区画や、土器や鉄器の製作に関わる遺構や遺物がみついているほか、古代の美濃須衛窯（岐阜県）産の須恵器が確認されています。

令和4年度の調査では、奈良時代の土器が多量に投棄された井戸や、平安時代末期以降の道路や火葬穴がみつかりました。本遺跡は古墳時代から中世にかけて地域内の生産活動や他地域との交流を担った拠点的な集落であったといえます。

今年度の調査では古墳時代から鎌倉時代にかけての遺構がみつかり、**縦穴建物・掘立柱建物・土坑（あな）・溝**などを確認しました。この中でも、古墳時代（約1,700年前～1,400年前）の遺構が特に多く、古墳時代前期（約1,700年前）の焼失した縦穴建物（縦穴建物8）や、土器などが投棄されたあな（土坑1・2）、古墳時代中・後期（約1,500年前）の倉庫（掘立柱建物1）などを発見しました。今回の調査を通して、古墳時代の高茶屋大垣内遺跡の具体像がよりはっきりしてきました。

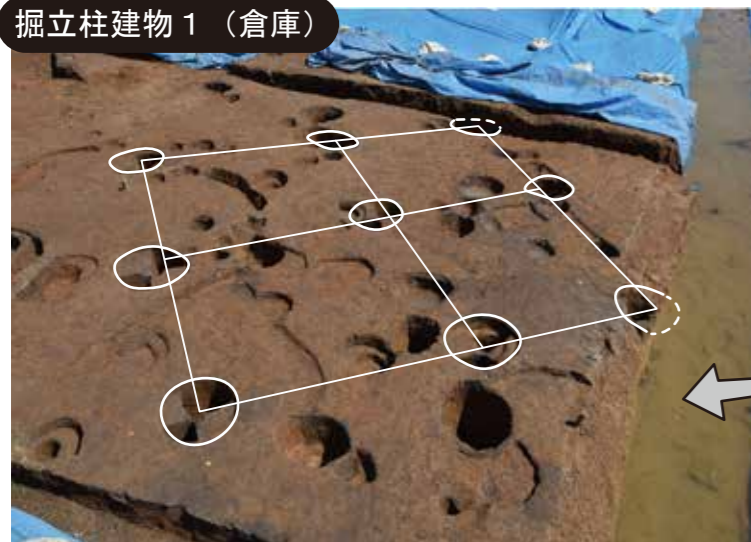
土坑 2



古墳時代前期(約1,700年前)の浅い土坑(あな)で、土器の破片とともに焼かれた土の塊が多く出土しています。土器づくりに関わる遺構の可能性も考えられます。

高茶屋大垣内遺跡では過去の調査で土師器を焼いたと思われる土坑が発見されており、古墳時代から土器づくりが盛んな地域であったことがわかっています。

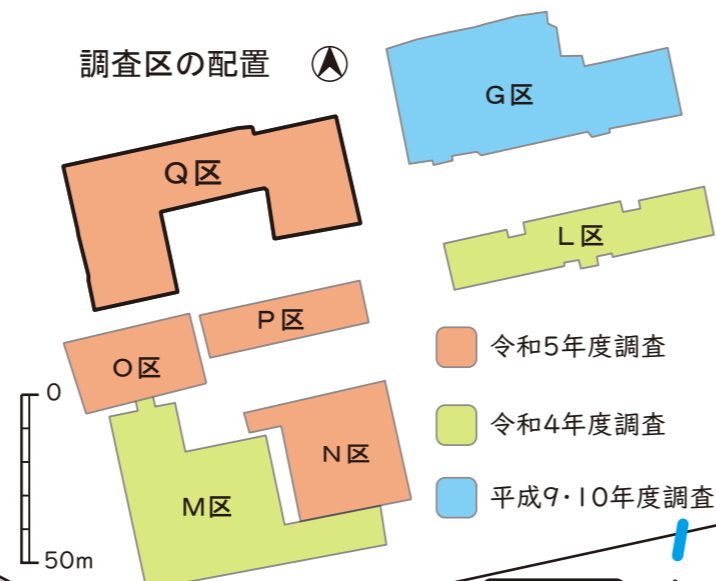
掘立柱建物 1 (倉庫)



古墳時代中・後期(約1,500年前)の掘立柱建物です。重量物に耐えられるよう建物の内側に床を支える柱をすえており、穀物などを入れる倉庫だったと思われます。

高茶屋大垣内遺跡では古代以前の倉庫は過去の調査ではみつかっておらず、今回の調査で初めて倉庫を含むエリアがあることが判明しました。

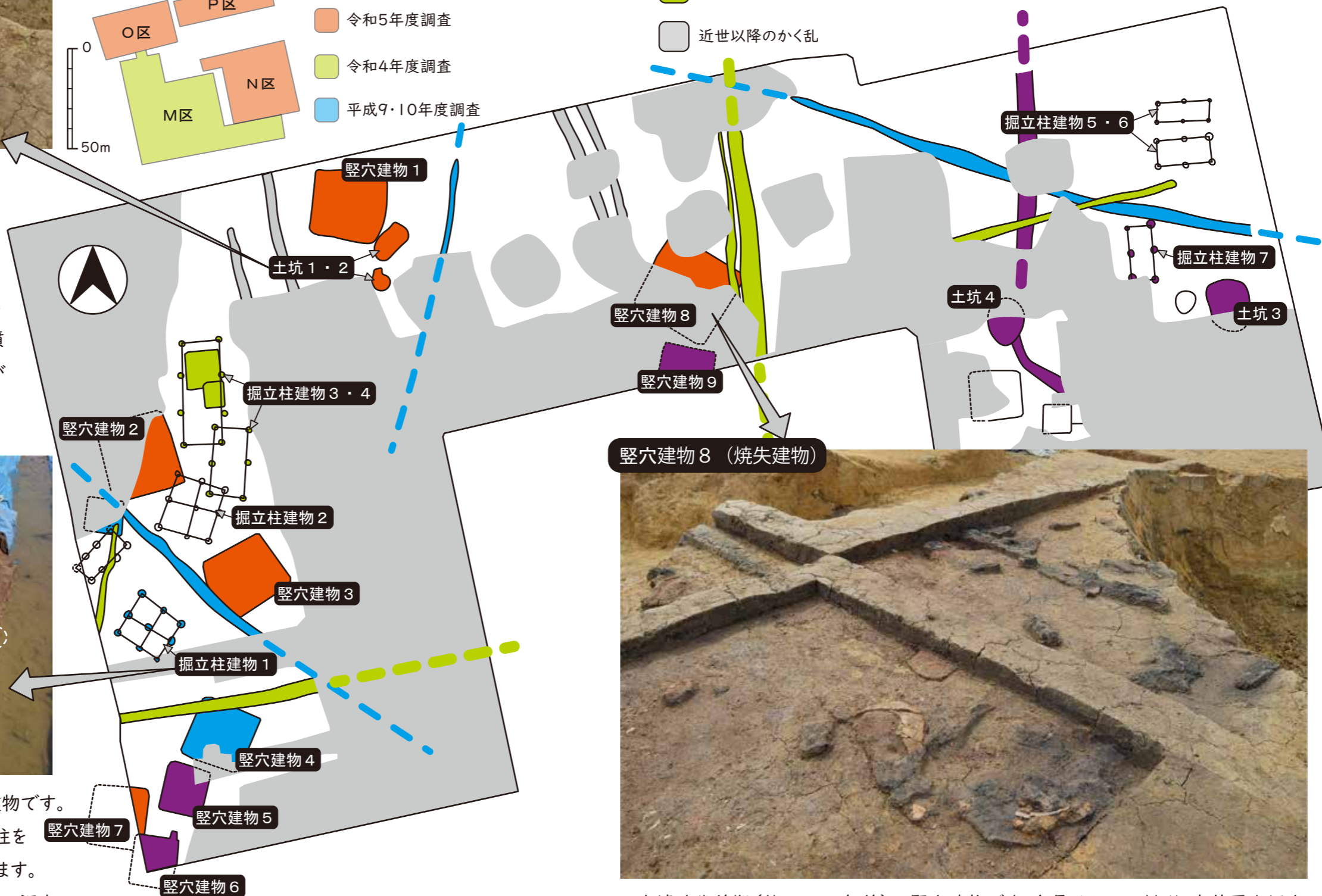
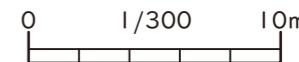
調査区の配置



- 令和5年度調査 (orange)
- 令和4年度調査 (green)
- 平成9・10年度調査 (blue)

- 遺構の時期
- 古墳時代前期(約1,700年前) (orange)
  - 古墳時代中・後期(約1,500年前) (blue)
  - 飛鳥時代~奈良時代(約1,300年前) (purple)
  - 平安時代末~鎌倉時代(約900年前) (green)
  - 近世以降のかく乱 (grey)

Q区の遺構の配置



竖穴建物 8 (焼失建物)



古墳時代前期(約1,700年前)の竖穴建物です。全長は6mほどあり、高茶屋大垣内遺跡の中では最大級の大きさです。床面からは炭になった木材(炭化材)が多く出土し、この建物がなんらかの理由で燃失したことがわかります。